



おじゃまします

さかき新企業人インタビュー⑪

地元にも愛される温かみのある タクシー会社を目指して

はたやまてつじろう
畑山哲次郎さんプロフィール

ひしこタクシー株式会社 代表取締役

昭和48年、戸倉上山田生まれ。長野高専から長岡技術科学大学・大学院に進み、セラミック加工を研究。卒業後はアピックヤマダに就職、サラリーマン生活を経て平成12年にひしこタクシー代表取締役役に就任。奥様と小学1年生のお嬢さんの3人暮らし。決まった休みがなかなか取れないなか、休みの日は子供と過ごす時間を大切にしているという。学生時代に熱中したサッカーやスポーツは、今はもっぱらテレビ観戦という。

近隣の戸倉上山田で親子4代という歴史あるハイヤー会社を実家に持つ畑山社長。ご自身は会社員時代を経て坂城で唯一のタクシー会社である「ひしこタクシー」の経営を継ぎ、この世界に入った。景気には左右されやすい業種とはいえ、「地元住民、特にお年寄りの足として欠かせないサービス」との強い思いで事業に取り組む。

——まず御社の歴史をお話ください。

「当社は昭和36年の創業以来、地元の皆様や出張で来られるサラリーマンにご利用いただきました。しかし、10年程前に前経営者が辞めることになり、平成12年に私が事業を引き継ぎました。30年以上、地元にも馴染んできた会社ですから、社名の『ひしこタクシー』もそのまま引き継ぎました。現在は従業員14人、8台の普通タクシーで営業しています」

——社長ご自身の経歴は？
「私は戸倉上山田で4代続

くハイヤー会社の4男坊です。家業を継ぐ立場ではなかったのですが、好きな分野に進み、大学・大学院ではセラミック加工を研究していました。卒業後は半導体製造メーカーに就職しましたが、結局、祖父や父と同じ仕事をするようになりました」

——タクシー業界の現況はいかがでしょう？

「やはり厳しいといえますね。タクシー業界というのは小売業と同じで景気の影響を直接受けますし、景気が回復傾向にあっても最後に追いつくような業種です。坂城は工業の町ですから出張の需要はありますが、昔に比べれば利用者は減りました。また、これといった観光資源がないので観光客の利用も少ないです。今、ご利用いただいているお客さまの多くは地元のお年寄りです。だからこそということでもないのですが、地域により密着した、地元の人たちから愛されるタクシー会社を目指さなければならぬ、と思っています」

——今、社長が座っておられるこの机。パソコンモニター

があり、無線マイクがあります。タクシー運行の司令塔ですね。モニターに地図が映っていますね。

「モニターに映っているのは坂城町の地図です。各タクシーにGPS端末を搭載してリアルタイムで各車がどこを走っているかが視覚的に確認できます。このシステムを導入したのは一昨年ですが、配車の管理やルート確認など、効率は格段に上がりました。当社は電話での配車がメインでお客様はお年寄りが多いですから、できるだけお客様をお待たせしないなど、より迅速なサービスが可能になりました」

——今後の展望についていかがでしょう。

「特に新しいことは考えていません。地域の人に気軽に使ってもらえる親しみのあるタクシー会社であり続けたいですね。通院に利用されるお年寄りも少なくないので、お客様に大しては、形式的な接客マニュアルでなく、心のこもったきめ細かな気配りができる温かみのあるタクシーを目指しています」

